

保証データ共同利用の取り組みが「ニッキン」に紹介されました

弊社が幹事会社となり推進しております、第二地銀系列総信各社の代弁データ共同利用の取り組みが、平成 27 年 1 月 9 日付「ニッキン」に紹介されました。

総信 6 社の代弁データを集約することにより、傾向分析の精度向上を目指します。

また、顧客属性や代弁発生時の特徴等を総合的に把握し、保証審査能力の向上と途上管理業務を拡充させ母体銀行の個人ローン推進に寄与してまいります。

(本件に関するお問い合わせ先)

弊社総合企画部 データ分析室 藤代、堀池 (Tel.03-3253-1331)

業界総合・人事 (4)

第二地銀系 6 保証会社

共同データベース構築

第二地方銀行系列の保証会社 6 社は、2015 年 4 月を境に住宅ローンの代弁データを分析するデータベースを共同で立ち上げる。6 社が過去 10 年に実行した住宅ローンの代弁データを抽出し、審査の精度向上や途上管理に生かす。分析資料の還元などを通じ母体銀行の住宅ローン推進の支援強化につなげる。

住宅ローンの代弁分析

6 社は東北総合信用、中日本総合信用、中国用、九州総合信用、第 1 保証、かんそくしん、総合信用、四国総合信、二地銀 35 行の住宅ロー

ンを保証しており、14 年 9 月末の合計の保証残高は 3 兆 4 億 6 千万円。これまで定期的な情報交換の場は設けていたが、事業運営で連携するのは今回が初の試みだ。

データを分析する共同データベースはすでに存在している

金融界では、住宅ローンの代弁情報を分析する共同データベースはすでに存在している

代弁率との関係が分析中心。一方、今回は第二地銀の顧客層に特化しており、既存の分析データとは異なる傾向が明らかになる可能性がある。

6 社は今後、代弁情報にとまらず、共有データを拡充することも検討する。